

## 教育長定例記者会見

日時：令和3年2月12日（金）10：00～

場所：教育委員会室

### <広報事項>

- 令和3年2月－3月の広報事項<教育委員会>  
・・・・・・・・2

### <話題提供>

- 「読み解く力」をもとに探究的に学ぶ力育成プロジェクト  
探究的な学習発表会  
・・・・・・・・4

- ICT活用ガイドブックについて  
・・・・・・・・6

## 令和3年2月～3月の広報事項<教育委員会>

日時(期間)	タイトル	内容・会場 参加料(有料・無料の別)・事前申込の有無等	所属 (課名、室名、 機関名、学校 名)	問い合わせ先 (担当者名、電 話・内線番号)
① 学校行事、募集等				
2月14日(日) 10:00～15:30	探究的な学習発表会	県内の高校生による探究活動の発表を行い、その後、京都大学名誉教授：坂 志朗 氏に御講演いただきます。 ・Zoomによるオンラインでの発表会 ・対象：県立高等学校の生徒、教員、保護者、教師塾の塾生 ※詳しくは、4ページへ	高校教育課	比良 正仁 077-528-4575 (内線4575)
2月15日(月) 表彰式 14:30～ カフェ 13:45～17:00	「近江鉄道・信楽高原鉄道沿線盛り上げ活動」の表彰式 日野高カフェ	「近江鉄道・信楽高原鉄道沿線盛り上げ活動」の最優秀賞に「日野高カフェ@Home」が選ばれ、その表彰式が行われます。 また、日野高校で「商品開発販売実習」を選択している生徒が、地域の人とのふれあいと、商品開発、原価計算などを学ぶことを目的にカフェを運営します。 ・会場：日野駅舎内「なないろ」	日野高等学校	神崎 善明 0748-52-1200
2月19日(金) 9:10～12:00	令和2年度 滋賀県立彦根東 高等学校 スー パーサイエンス ハイスクール研 究発表会	スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の一環として、2年生SSクラスの生徒が、1年間かけてグループで取り組んできた(※)課題研究を発表します。さらに、発表後、質疑応答を通して、研究の深化をはかります。 ・会場：滋賀県立文化産業交流会館 小劇場 ・参加料：無料 ・事前申込：不要 (※)今年度SSH生徒研究発表会において本校3年生の数学グループの研究発表「“自然数の累乗和”の累乗公式～図形の入れ子構造を利用した公式生成アルゴリズム～」が科学技術振興機構理事長賞(全国第2位相当)を受賞しています。	彦根東高等学 校	北村 登志子 0749-22-4800
2月22日(月) 14:30～14:50 第8回児童学習 航海終了時 (琵琶湖大橋 港着船後)	令和2年度 「湖の子」終航 式	令和2年度児童学習航海を終了するにあたり、学習船「うみのこ」およびお世話になった方々に感謝の気持ちを表します。 ・場所：道の駅 琵琶湖大橋米プラザ 芝生広場 (雨天時：学習船「うみのこ」船内 多目的室および学習室兼食堂(琵琶湖大橋港係留中)) ・参加校：大津市立堅田小学校 大津市立坂本小学校	びわ湖フロー ティングス クール	中瀬 真一 077-524-8225
3月3日(水) 10:30～10:50	滋賀県インク ループ教育賞 表彰式	障害のあるなしにかかわらず、共生社会の形成に寄与したと考えられる地道な取組を行った児童生徒を表彰することを通じて、共に学び共に生きる児童生徒の心を育むとともに県民のインクループ教育や共生社会に対する理解促進を図ります。 ・場 所：県立草津養護学校 ・受賞者：県立草津養護学校	特別支援教育 課	榎森 恭史 077-528-4643 (内線4643)
3月13日(土) 14:00～17:00	令和2年度彦根 東サイエンス フェスティバル I	県内の大学生・高校生が、自然科学系の部活動や課題研究で取り組んでいる研究の成果をポスター発表します。互いに議論や評価をしあうことで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション力に磨きをかけます。(令和3年4月には、サイエンスフェスティバルIIとして、英語バージョンの実施を予定しています。) ・会 場：滋賀県立彦根東高等学校 ・参加料：無料 ・事前申込：不要	彦根東高等学 校	北村 登志子 0749-22-4800
3月19日(金) 13:45～17:00	日野高カフェ	日野高校で「商品開発販売実習」を選択している生徒が、地域の人とのふれあいと、商品開発、原価計算などを学ぶことを目的にカフェを運営します。 ・会場：日野駅舎内「なないろ」	日野高等学校	神崎 善明 0748-52-1200

## 令和3年2月～3月の広報事項＜教育委員会＞

日時（期間）	タイトル	内容・会場 参加料（有料・無料の別）・事前申込の有無等	所属 （課名、室名、 機関名、学校 名）	問い合わせ先 （担当者名、電 話・内線番号）
② 研修・会議等				
2月12日(金) ～2月28日 (日)	滋賀県総合教育 センター創立50 周年記念 令和2年度第63 回研究発表大会 (オンライン開 催)	「子どもの学びに向かう力を育むために」をテーマとし て、第63回研究発表大会を開催します。 ・開催方法：オンライン開催（オンデマンド配信） ・参加料：無料 ・事前申込：不要 ・対 象：教育関係者 ※総合教育センターホームページから視聴できます。 ※視聴には、IDとパスワードが必要です。	滋賀県総合教 育センター	三木 崇史 077-588-2511

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、掲載している催し物が中止・延期になる可能性があります。  
事前にお問い合わせください。

## 「読み解く力」をもとにした探究的に学ぶ力育成プロジェクト 「探究的な学習発表会」

### 【目的】

各校で実践した探究的な学びの取組やその成果について発表する機会を設け、探究的な学びを全県に普及する。また、探究することの面白さや意義について考え、探究的な学びの充実、発展を図るとともに、同年代の高校生の課題研究の発表を聴くことで、生徒の学問的探究心を養う。

### 【概要】

6校7グループの生徒がオンラインで、各校で実践した探究的な学びの取組やその成果を発表します。また、大学の若手研究者や大学院生からの指導助言および大学教授による講評、探究学習のまとめ方と次年度以降の探究活動へのつなげ方等についての講演を行います。

●日 時 令和3年2月14日(日) 10:00~15:30

Zoomによるオンラインでの発表会

10:00~10:05 開会(福永教育長からの挨拶、日程説明)

10:05~10:30 高島高等学校

10:35~11:00 瀬田工業高校化学工業科

11:05~11:30 甲南高等学校

11:35~12:00 膳所高等学校

13:00~13:25 湖南農業高等学校

13:30~13:55 瀬田工業高校電気科

14:00~14:25 石山高等学校

14:30~15:15 講評および講演

15:15~15:25 質疑応答

15:25~15:30 閉会

研究発表および指導助言

※ 時刻につきましては、進行状況により前後することがあります。

●参加者 県立高等学校の生徒、教員、保護者、滋賀の教師塾塾生

●内 容 研究発表 膳所高等学校、石山高等学校、瀬田工業高等学校(2グループ)、  
湖南農業高等学校、甲南高等学校、高島高等学校

講演 坂 志朗 京都大学名誉教授

### 【取材について】

●オンラインでの視聴を希望される場合は、当課担当者まで、また、各学校の発表の様子を直接取材される場合は、下記の通り各学校へお問い合わせください。

●各学校の問い合わせ先

膳所高等学校(教頭:富永 077-523-2304)

石山高等学校(教頭:仲間 077-537-3371)

瀬田工業高等学校(教頭:田中 077-545-2510)

甲南高等学校(教頭:山本 0748-86-4145)

湖南農業高等学校(教頭:大菅 077-564-5255)

高島高等学校(教頭:北野 0740-22-2002)

## 探究的な学習発表会

### ○研究発表

高校名	テーマ	時間
高島高等学校	定住人口を増加させるために	10:05 ～ 10:30
瀬田工業高等学校 化学工業科	地域とかかわりながら行う身近な河川の観測と調査	10:35 ～ 11:00
甲南高等学校	子ども達とのふれあいが生まれる舞台作りを目指して	11:05 ～ 11:30
膳所高等学校	粘菌の記憶能力について	11:35 ～ 12:00
湖南農業高等学校	GAP 認証取得までの道のり	13:00 ～ 13:25
瀬田工業高等学校 電気科	負けないじゃんけんシステム	13:30 ～ 13:55
石山高等学校	琵琶湖におけるミクラステリアス・ハーディの 生態および優占種となった要因についての研究	14:00 ～ 14:25

## ICT活用ガイドブックについて

（ 概要 ） 国のGIGAスクール構想による1人1台端末の導入を受け、教員がICT機器を効果的に活用できるようにしていくため、授業での活用事例等を示したICT活用ガイドブックを新規作成。

（ 説明 ）

### ◆ガイドブックの主な特徴

#### 1 子どもの学びの変容を整理

教員が、授業でのICT機器活用の効果や必要性について理解することを目的に、ICT活用による子どもの学びの変容を示した。また「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の場面ごとに、活用のイメージと教員の指導を見やすく図でまとめた。

#### 2 活用場面を取り組みやすさで分類

全ての教員が取り組みやすいよう、授業の中で比較的活用しやすい場面と、より実践的な活用をする場面に分けて整理した。

#### 3 教科ごとに活用事例を紹介

具体的な活用事例を教科等ごとに1ページにまとめた。ここでも、機器の複雑な操作等が比較的少なく、取り組みやすい事例から順に示している。

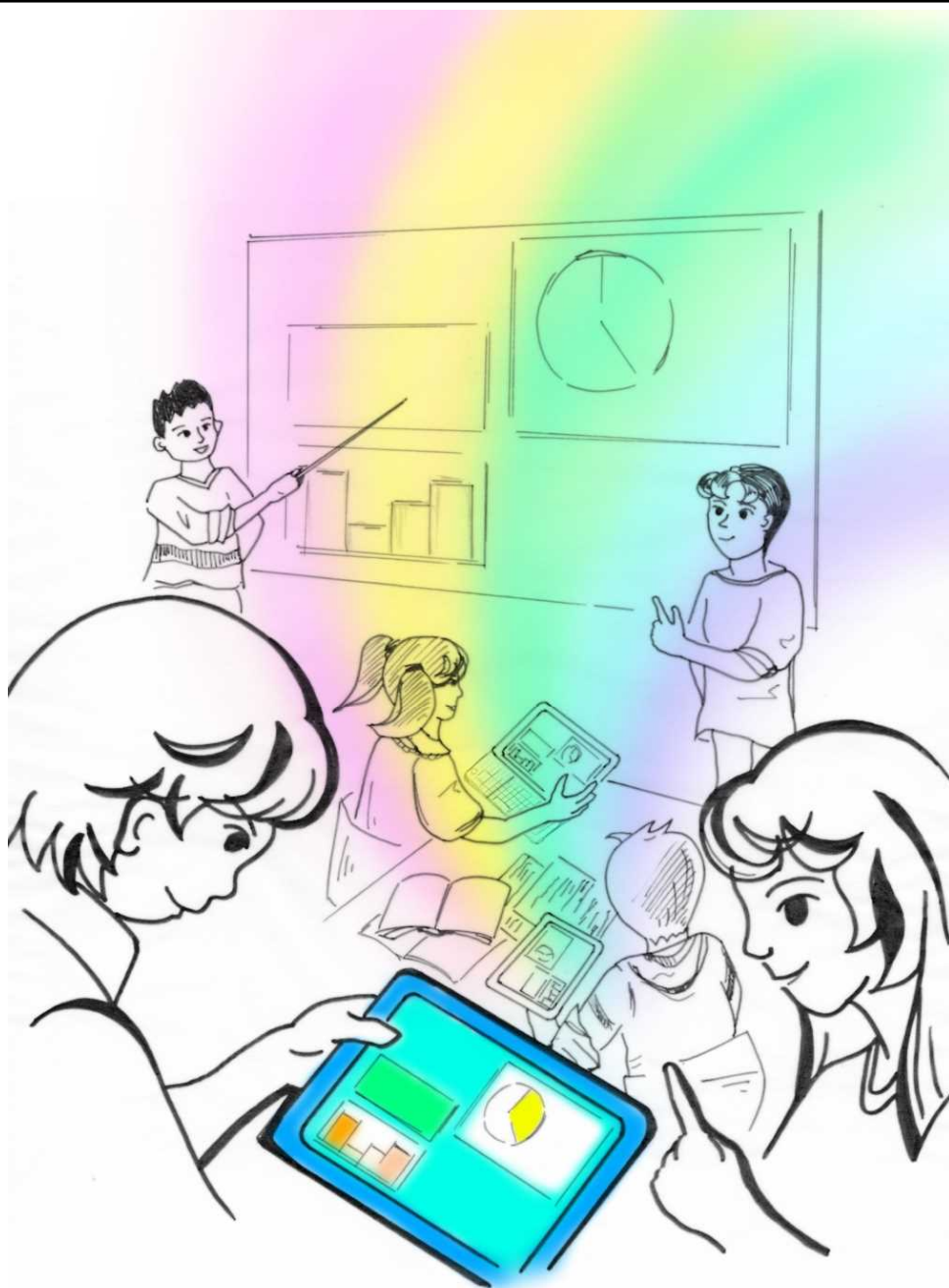
#### 4 参考となる資料を掲載

オンライン授業の方法や、保護者との連絡手段としての活用等の事例、また情報モラル教育、端末を家庭に持ち帰らせる場合の注意事項等、ICTを活用していく上で、参考となる資料を掲載した。

本ガイドブックが授業実践や教員研修の一助となるよう、学校現場で活用いただきたいと考えている。また、来年度以降も県内での活用事例等、最新の情報を加えて更新し、充実させていく予定。

# ICT活用ガイドブック

～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～



令和3年1月

滋賀県教育委員会

# 目次

<b>1 ICT活用の必要性</b> ……………P.2	<b>ページ</b>
(1) 今求められるICT教育……………	2
(2) ICT教育によってこんなことが「できる」！……………	2
(3) 「1人1台端末」を活かした学びの変容イメージ……………	2
<b>2 授業でのICTの活用について</b> ……………P.3	
(1) ICTを活用した授業改善……………	3
(2) 1人1台、まずはこんな使い方からはじめましょう！……………	4
(3) 1人1台、こんなこともできます！……………	5
<b>3 教科等での活用について</b> ……………P.6	
(1) 国語……………	6
(2) 社会……………	7
(3) 算数・数学……………	8
(4) 理科……………	9
(5) 音楽……………	10
(6) 図画工作・美術……………	11
(7) 体育・保健体育……………	12
(8) 家庭……………	13
(9) 技術……………	14
(10) 外国語……………	15
(11) 特別の教科 道徳……………	16
(12) 生活……………	17
(13) 総合的な学習の時間……………	18
(14) 特別活動……………	19
<b>4 遠隔教育について</b> ……………P.20	
(1) 遠隔教育の種類……………	20
(2) オンライン授業について……………	21
<b>5 授業以外でのICTの活用について</b> ……………P.22	
(1) 授業以外の場面での活用例……………	22
(2) 家庭（保護者）に向けての活用例……………	23
(3) 職員間での活用例……………	24
<b>6 児童生徒への指導事項</b> ……………P.25	
(1) 最初に指導したいこと……………	25
(2) 情報モラル教育について……………	26
(3) 持ち帰らせる際の注意事項……………	32
<b>7 著作権について</b> ……………P.34	
(1) 著作権と授業目的公衆送信補償金制度……………	34
(2) 著作権に関するQ&A……………	35
(3) 「授業目的公衆送信補償金制度」に関するQ&A……………	35
<b>8 参考となるサイト集</b> ……………P.37	



# ICT活用ガイドブック

～1人1台端末による学びの質の向上に向けて～

## 4つの特徴

### ① 子どもの学びの変容を整理

- 「一斉学習」「個別学習」「協働学習」の場面ごとに整理

#### 1 ICT活用の必要性

##### (1) 今求められるICT教育

これからのICT教育は、国のGIGAスクール構想により実現する、学校における「1人1台端末」の環境を十分に活用し、個別最適な学びや協働的な学びの向上を目指した授業改善を進め、全ての子どもたちの学びの質を高めることにつながる事が重要です。

##### (2) ICT教育によってこんなことが「できる」!

- 子どもの興味・関心を高め、効率的な学習（画像や動画を利用し、より分かりやすく）
- 子どもの授業への積極的な参加を促すこと（個人の意見を発言（発信）しやすく）
- 個別最適な学び（習熟度に応じてきめ細かく指導・支援）

子どもの  
学びの変容を  
整理

教科ごとに  
活用事例を  
紹介

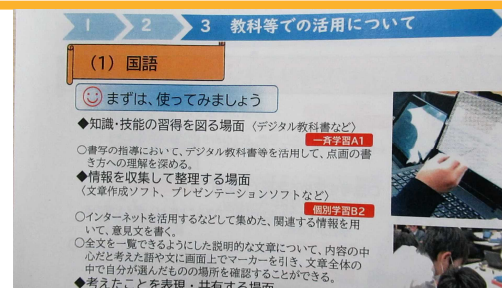
ICT活用  
ガイドブック

活用場面を  
取り組みやすさで  
分類

参考となる  
資料を掲載

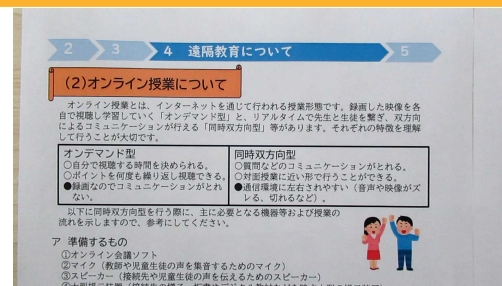
### ③ 教科ごとに活用事例を紹介

- 具体的な活用事例を教科ごとに1ページで表示
- 取り組みやすい事例から順に紹介



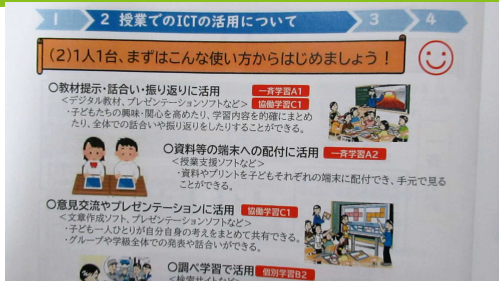
### ④ 参考となる資料を掲載

- オンライン授業の方法
- 保護者との連絡手段としての活用
- 情報モラル教育
- 端末を持ち帰らせる場合の注意事項 等



### ② 活用場面を取り組みやすさで分類

- 授業の中で比較的活用しやすい場面とより実践的な活用をする場面に分けて整理



教員が授業等でICT機器を効果的に活用

